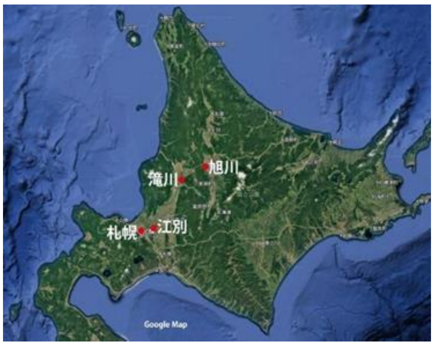
行政視察報告書

所属委員会 または会派名	社会文教委員会	参加者 氏　名	委員長 近藤 一美　　副委員長 藤森 綾子 森山 博美 牛山 実弦 大津 学 牛山 正 伊藤 浩平
行政視察名称	令和6年度諏訪市議会社会文教委員会行政視察		
視察期間	令和6年10月30日（水）～11月1日（金）　3日間		
視察都市	 北海道 札幌市 旭川市 滝川市 江別市		
視察都市名	北海道札幌市		

1.北海道 札幌市を視察した目的

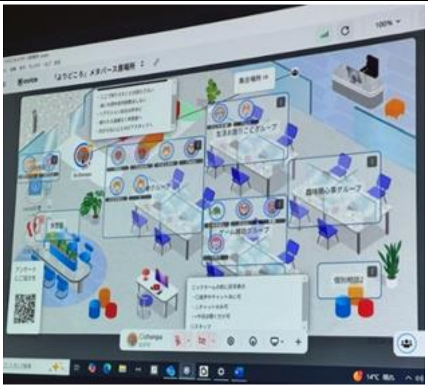
メタバースを活用した「ひきこもり支援」の先進事例を通じて、具体的な運営方法や効果、課題を把握する。また仮想空間を活用することで対象者の心理的負担を軽減し、支援の届きにくい層へのアプローチがどのように可能になるのかを学ぶ。これらの知見をもとに、諏訪市での導入の可能性を検討し、地域特性に適した支援モデルの構築につなげる。さらに、支援を受ける当事者やその家族の実態を関係者より直接聞くことで、支援の実態と地域福祉への影響を深く理解する。

2.視察地の概要（令和 6 年 11 月 1 日現在 下段は諏訪市）

住民基本 台帳人口	1,968,326 人	住民基本 台帳世帯数	1,005,004 世帯	面積	1,121.26 ㎢
	47,640 人		22,613 世帯		109.17 ㎢

札幌市は面積で東京都 23 区の約2倍、人口は北海道の約3割を占め日本で4番目に人口の多い政令指定都市。北海道の政治、経済、文化芸術の中心地である。

3.視察内容



「メタバース空間」

・札幌市のひきこもり地域支援センターで実際にメタバースを活用したウェブサイトに入った場所に同席させてもらいながら説明を受けた。精神保健福祉士、保健師など 5 名の職員体制で構成されている。

・札幌市の潜在的なひきこもり件数

（H31 ひきこもりに関する実態調査、広義のひきこもり群の出現率）

15～39 歳の場合 1.25%（6,604 人）

40～59 歳の場合 1.45%（8,128 人）

60～65 歳の場合 4.90%（5,091 人）

合計人数 19,828 人 と推定。

・引きこもりに関する集団支援拠点「よりどころ」事業の運営を NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークへ委託。

・「当事者の会」「家族の会」を実施しており 1 回当たり 2 時間ほど月 4 回程度開催している 。参加人数は 1 回あたり 4.4 人。

・「当事者の会」のうち月 1 回、メタバース開催 、メタバースは「ovice」を利用。44 人タイプで年間 33 万円。

・匿名で参加でき、本人確認なし、参加へのハードルを下げている。

・相談に従事した経験のある支援員やひきこもり経験者がピアサポーターとして 10 名ほどで対応している。 ・Zoom のオンラインで行っていた時よりも参加者が多い。 ・社会参加の意欲を高めるためのプログラムや学習会を実施している。
4.委員会としての所感及び諏訪市に反映できると思われる点
・ひきこもりの数を正確に把握することは難しいものの、札幌市の調査から一定数の存在が確認されている。その対策として、支援センターを中心とした相談窓口や居場所の連携が進められており、メタバース空間を活用した居場所提供も行われている。この取り組みがすべてを解決するわけではないが、当事者がメタバース内で社会とつながることにより、次のステップへのきっかけとなる可能性があると感じた。メタバースの活用は、対面での相談が難しい場合でも心理的ハードルを下げる効果があり、ひきこもり支援の一つとして有効である。 ・この技術は市役所業務、婚活、イベント運営など、幅広い分野での応用が期待されている。特に臨場感の高い 3D 空間は、導入時の効果をより高めると考えられ、諏訪市でも導入を検討すべきと考える。

視察都市名	北海道旭川市
1. 北海道旭川市を視察した目的	
旭川市子育て支援部「おやこ応援課」の取組や施策について、具体的な内容や実施方法を深く研究し、その中で特に優れた事例や実践的な事例を学ぶことを目的としている。さらに、子育て支援の分野で同様の課題を抱える地域への応用や参考となる要素を見出すことで、諏訪市の子育て支援の質向上や新たな施策の展開につなげていくためである。また、実際に現場で働く職員や関係者との意見交換を通じて、取組の背景や課題、成功の要因を理解することを目指す。	
2.視察地の概要（令和6年11月1日現在　下段は諏訪市）	

住民基本台帳人口		住民基本台帳世帯数		面積	
	316,801 人		177,394 世帯		747.66 ㎢
	47,640 人		22,613 世帯		109.17 ㎢

旭川市は北海道の中央に位置し、札幌市に次ぐ第二の都市。農業・サービス業が盛んで、旭山動物園が有名である。人口減少対策に力を入れている。
3.視察内容

・旭川駅前の商業ビル 2 階にある子育て世代包括支援センター「waka・ba」にて子育て支援部「おやこ応援課」の説明を受けた。「おやこ応援課」は 「子育てサービス係」「こども健康係」の 2 つに分かれていて職員は 37 名。保健師、保育士、公認心理士、理学療法士、社会福祉士、精神保健福祉士など幅広い人材で子育て世代のサポートをしている。
・「waka・ba」は当初、諏訪市の保健センター的施設として乳幼児健診等で平日利用されており、土日は閉館されていたが　本年 6 月より 施設の有効活用を目的に「おやこサポート Weekend」として施設を一般開放している。（昨年の利用者数約 4,000 人）
・北海道新聞に運営を委託し、様々なイベント等を行っている（委託費 650 万円）
・保健業務と家庭センター業務をひとつに行っており、不妊不育業務から妊娠時、幼児期を切れ目なく行っている。
・立地条件も良いことから幼児を持つ家族の居場所となっている。

・私の未来プロジェクト事業では、出前講座として小中高生に出向いて妊娠・出産・子育てについての講話や赤ちゃんとのふれ合い体験などを通じて、命の大切さを学び自己肯定感を高め、子育ての楽しさや喜びを理解することを目的に行っている。

4.委員会としての所感及び諏訪市に反映できると思われる点

・施設も新しくきれいな建物であり、健診等は安心して受診できる。また、土日も開放して子育て世代の居場所となっている。どの自治体も手厚い支援を行っており、このことは非常に重要ではあるが、このことだけで出生率等の上昇、子育て世代の移住等には直接結びついていないと改めて感じた。
・未来プロジェクト事業の出前講座は、諏訪市でも同じような取組として、16 年前から「ドキドキだっこ」と称した諏訪中学生と赤ちゃんとのふれあい体験講座の開催や、小中学校でも毎年、性教育授業は行われているが、改めて子育てのすばらしさ、命の大切さ、自己肯定感を高めるうえでも必要な取組であると感じた。
・子育て支援の部署に遊び場が併設され、職員から見えるところで様々な交流や、サポートがされている環境がいいと思った。

視察都市名	北海道滝川市

1. 北海道滝川市を視察した目的

同施設が取り組む廃棄物処理およびリサイクルの実態や運用方法を詳しく学ぶことを目的としている。特に、生ごみ廃棄物によるメタン発酵を活用したエネルギー回収と発電の仕組みや、その効率性、環境負荷軽減への効果について理解を深める。視察を通じて得られた知識や事例を基に、自地域での応用の可能性を検討し、持続可能な廃棄物処理やエネルギー利用の推進に役立てたいと考える。

2.視察地の概要（令和6年11月1日現在　下段は諏訪市）

住民基本台帳人口	36,582 人	住民基本台帳世帯数	20,670 世帯	面積	115.90 ㎢
	47,640 人		22,613 世帯		109.17 ㎢

滝川市は北海道のほぼ中央に位置し、面積は諏訪市と同程度であるが人口は少ない。農業中心の都市で、人口減少が続いている。

3.視察内容

・周辺３市２町の一部事務組合で運営している。
・リサイクリーンは ３ 施設（事業）を行っている。
・高速メタン発酵処理施設（発電、たい肥化）（H15 年８月から）
　リサイクルプラザ（H15 年４月から）
　中継施設（燃えるごみを集めて歌志内市の焼却場へ運搬する）
　（H15 年４月から）
・ごみの中間処理施設建設の検討段階で、ごみ焼却は歌志内市の当時民間施設を活用することとなり、その施設は生ごみが搬入できず、生ごみ処理方法を検討した。
・生ごみ処理はバイオガス化、たい肥化とあるが、国の補助メニューにバイオガス化がなった（H13 年から）こ

とにより、バイオマス化を採用した経緯がある。
・人口減少で生ごみの量が計画を下回り（食品工場の生ごみは廃棄物処理法上受け入れられない）、3基の発酵槽のうち1基しか稼働していない。生産される堆肥も市町村や大規模農業経営者などのルートで販売できず、ややだぶつき気味で、このままでは投棄しなければならない可能性もある。

4.委員会としての所感及び諏訪市に反映できると思われる点

・人口減少によるごみ減量に伴って、ごみ処理の広域化などいろいろ課題がある。
・生ごみ処理で発電するという、環境にとっては非常に有効な取り組みをされていると感じた。
・諏訪市のセンター方式のごみ回収ではなく、滝川市の個別回収には驚いた。ごみの中間処理施設の技術進歩とともに生ごみ等の焼却は環境負荷がなくなってきている。貴重な施設を見ることができた。
・設備管理の維持費用が、かなりかかるのではないかと感じた。
・諏訪市で同様な事業を実施するには、広大な土地を有するため立地条件に難あり。

視察都市名	北海道江別市

1. 北海道江別市を視察した目的

地域の子育て支援の拠点としての役割や具体的な運営方法、提供されているサービス内容を詳しく学ぶことを目的としている。特に、子育て中の親子が気軽に集い、交流できる場の創出や、専門スタッフによる相談対応・情報提供などの支援体制について学ぶ。また、施設のデザインや運営方針が親子の安心感や利用しやすさにどのように寄与しているのかを現場で確認し、他地域での子育て支援施設の整備や運営に活かせる具体的な知見を得ることを目指す。安心して子育てできる仕組みづくりのヒントを得ることを目指す。

2.視察地の概要（令和6年11月1日現在　下段は諏訪市）

住民基本台帳人口		住民基本台帳世帯数		面積	
	118,114 人		59,856 世帯		187.38 ㎢
	47,640 人		22,613 世帯		109.17 ㎢

江別市は石狩平野の中央に位置し石狩川が流れ、札幌市に隣接したベットタウンとして、都市機能と自然がマッチした都市である。

3.視察内容

・北海道江別市、イオンタウン江別２階「ぽこ　あ　ぽこ」にて遊び場とは別室の会議室で江別市子ども家庭部子ども育成課より説明を受けた。
・平日は保育士など非常勤職員３名、土日祝日は４名配置。シフト制で 30 時間勤務のスタッフや代替職員を配置。子育て支援コーディネーターが常駐し、利用者支援を行う。
・子育て世代からの声で屋内での遊び場施設の要望があったのを機会に、イオンショッピングモールでの空き店舗の場所を確保し、平成 25 年に開設した。
・9:30～17:30、1/1,2 以外はオープンしている。利用料無料。
・受付や清掃業務は外部委託。

・登録制で登録者は 23,348 人（市内 5,559 人、市外 17,789 人）
・令和 5 年に利用者 87,652 人（市内 35,679 人、市外 51,973 人）
・市外の利用者のほうが多いが江別市は子育てしやすい、移住につながればとの思いで区別せず市外の方でも利用料は無料。
・令和 5 年 12 月にリニューアルし、遊具及び入退館システム(QR コード)を更新。
・リニューアル後は年齢による遊び場を分けてより安全になった。
・子育て支援コーディネーターや助産師が相談日を設け、乳児の計測や妊産婦の相談に対応。

4.委員会としての所感及び諏訪市に反映できると思われる点

・リニューアルしてから 1 年ほどしか経っていないので非常に綺麗で遊びやすい施設であった。
・多くの親子が遊んでおり、入場規制をするほど賑わっていた。冬の降雪、雨の日など小さなお子さんのお持ちのご家庭は、このような施設はありがたいと思う。諏訪市においても今後の施設整備において課題となると感じた。
・子どもたちが元気いっぱい遊び、保護者の方々も一緒に楽しんでいる様子がとても印象的だった。子どもと保護者の両方をサポートできる施設は、本当に素晴らしいと思う。しかも市内外問わず無料で利用できるというのは、多くの方にとってとてもありがたい取り組みだと感じた。「子育てしやすいまち江別」を目指すその姿勢は、諏訪市でもぜひ参考にしてほしい。
・諏訪市でもこのような施設を参考に研究・検討が必要。
（場所は）
①市域の中央付近
②子育て世帯の多い地域
③空き店舗等と広い駐車場のある所がよい
・会員登録のデジタル化は保護者側も施設側にも便利でペーパーレスにもなるので諏訪市に反映していただきたい。